

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第四弾！を実施しました。

2025年11月21日（金）16時30分から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第四弾！」を実施し、学部生 18名、教職員 8名の合計 26名の参加がありました。

今回は、2024年9月より始動した浅井東診療所メンタルヘルスチーム「ここくら」から北川景都さん、寺村育美さん、川瀬佳奈さんをお招きし、「オープンダイアローグを通して考えるチームでの対話のあり方」をテーマにご講演いただきました。

北川先生からは、子どもから高齢の方のメンタルヘルス患者には病名の付かないものが沢山あり、診察を行う上で、1対1での対応には限界があり、フィンランドの精神病院で始まった『オープンダイアローグ』を取り入れ、多声性・チームでの診療を大事にしてくことの大切さをお話しいただきました。

川瀬看護師からは診療所の外来とメンタル外来の対応の違いについてや、メンタルヘルス診療は看護師でなくてもよいのでは？と意識変容を行い、ご自身の体験も交えながらメンタルヘルス診療への取り組みについてお話しいただきました。

寺村ソーシャルワーカーからは、ソーシャルワーカーの仕事について説明いただき、対話や『正解に導く必要はなく、クライエント自身が選択したことが正解と思えるように』といったクライエントを尊重することの大切さをお話しいただきました。

また最後に、リフレクティングや「黙って話を聞いてみる」ワークを行い、学生からは『話を聞いてる時に、聞きたいことや共感できるエピソードなどがあったが、相槌だけしかできないもどかしさを感じた。』と対話の難しさを体感することができました。

参加学生からは「今までの医療は医療従事者側から患者側へ一方的に医療を提供するのが主な流れであったが、患者と医療者が対話を重ね、患者が求める医療環境を共に作っていく必要があると思った」、「相談者側の考えが広がっていく様子が見れて興味深かったです。」といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。





(この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO法人
滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました)